

全寮制肢体不自由養護学校における保護者との連携について

- インターネットを活用した電子的連携の取り組み -



兵庫県立播磨養護学校

教育情報部 田中 好國

yotanaka@hyogo-c.ed.jp

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~harima-yogo/>

キーワード：全寮制，肢体不自由，ホームページ，インターネット，保護者，
電子的連携，IT講習

1. はじめに

障害のある生徒の教育にはとくに保護者との連携が重要であり、特別な支援教育を必要とする学校においては保護者との連携がいろいろな方法で行われている。障害のある園児・児童や生徒を学校と保護者が手を結んで自立に向けた教育を行っているわけである。しかし、本校は昭和42年に開校した当初から兵庫県全域を学区としている全寮制の肢体不自由養護学校であり、県下全域から生徒が入学してきているのでこうした保護者との連携が行いにくい状況にあった。そこで、学校ネットワークが完成し、高速回線も整備された現在では学校公式ホームページを活用して、生徒の日々の教育活動をリアルタイムで発信してインターネット上で瞬時に閲覧できるように努めている。

全校ネットワーク環境が整備され、教職員のIT活用能力も飛躍的に向上し、現在では学校全体で情報化を促進している。ここでは、ネットワークを介して学校と遠く離れた地域に居住している保護者との連携を推進してきた本校の取り組みについて報告する。

2. 学校の概要と生徒の実態

1) 学校の概要

本校は、兵庫県の南西部、龍野市の西部に位置する揖西町にあり、現在創立36年目を迎えている。県内には肢体不自由養護学校は14校(さらに1分教室)あり、他の肢体不自由養護学校がほとんど通学制(中には寄宿舎を持っている)であるのに対して本校は創立以来全寮制という特色をもっている。本校には中学部と高等部のみが置かれ、高等部には普通科と職業科(商業コース)が設置され、生徒の多様な進路希望に応じた多くの選択科目を開講している。

2) 生徒の実態

現在(2003年1月)県内15市、12町の各地域の小・中・養護学校を卒業した中学部4名、高等部56名の生徒が在籍している(表1)。本校生は最低限の身辺自立が可能な者がほとんどで、医療的ケアを必要とする生徒はいない。

地区名	神戸	阪神	東播	西播	丹有	但馬	淡路
中学部	0	0	0	4	0	0	0
高等部	11	11	12	17	1	2	2
合計	11	11	12	21	1	2	2

表1 生徒の居住地別分布

生徒の疾患は脳性疾患が約73%、脊椎・脊髄疾患が約11%、その他が約16%となっている。しかし、10数年前と比較すると生徒数は大幅に減少し、そのかわり確実に重度重複化の入学者が増加してきている。

以前にも増して学校と保護者との連携の必要性が生じてきて

いるわけである。

3. 本校のネットワーク環境

本校は平成9年12月に文部省の「インターネット利用推進地域指定事業」の研究実践校に指定され、インターネットの教育的利用が始まった。また、平成11年5月に「光ファイバー網による学校ネットワーク」が構築され高速専用線が入り、すべての特別教室・図書室・寄宿舎にあるコンピュータを利用して生徒が「いつでも、どこでも、自由に」インターネットを利用できるようになった。

さらに、平成13年4月に全教室のネットワーク化が完成し、すべての部屋でインターネットが可能になった。回線の環境では、昨年12月に10Mの専用線が利用可能になり、高速環境のもとでインターネットを活用した特色ある取り組みが行われている。インターネットに接続した当初1台のコンピュータで始まったネットワーク利用が現在では生徒60人規模の学校で約130台にまで増え、この間生徒・教職員のIT活用能力も著しく向上した。

4. 保護者との電子的連携

本校の保護者(家庭)との連携については、学校経営の重点に「家庭との連携を深め、生徒の夢の実現を目指す個に応じた教育を進める」という項目がある。これを受けて、教科指導・生徒指導・進路指導・自立活動・保健及び給食、学部学年で保護者との連携を深めている。しかし、前述のように本校は全県学区の全寮制なので保護者との対面での連携

が難しい場面が多く、生徒の日々の活動が保護者にわかりにくい。そこで、インターネットを利用した電子的連携に力を入れてきているが、その例を以下に報告する。

1) 教育活動のリアルタイム紹介

ア 学校行事の発信 学校行事のリアルタイム発信の方法については、ホームページ上の「イメージボード（画像付



図1 イメージボード（画像付き掲示板）



図2 リアルタイム画像の発信例

き掲示板）」(図1)や「BBS 掲示板」、お知らせ及び学校行事サイト等に新規ページ(図2)を作成しアップを行っている。「イメージボード」は主に保護者向けで、生徒の教育活動をリアルタイムで発信している(撮影後5分以内にアップ)。「掲示板」は保護者や卒業生、長期休業中の生徒への連絡板として活用している。全体の大きな学校行事については、事前にhtmlページのレイアウトを作成し、画像を撮影後すぐに挿入しアップを行っている。そして、画像が入手でき次第順次そのページの更新を図っている(画像入手後5分でアップ)。この作業は管理者が行っている。

こうした情報の発信は、学部学年の校外学習、水泳大会、体育祭、修学旅行、文化発表会、寄宿舎など生徒中心の諸行事すべてに及び、保護者の自宅等で生徒の様子をリアルタイムで見いただいている。

イ 学部学年の情報発信

学部学年には、公式ホームページに専用フォルダを設け、学部学年ごとの行事の情報発信を依頼している。校内ネットワークサーバに「Web data box」という共有フォルダを作り、その中の学部学年ごとのフォルダに入れてもらったデータを管理者がFTPで更新している。また、「学年便り」も従来は用紙に印刷して帰省日に配布していたが、Webページ(pdf)として発信し、1年間の内容をいつでも閲覧していただけるようにしている。

2) 遠隔教育の実施



図3 本校でのTV授業

病院に入院していた生徒に対して、併設の学校に協力を願ってテレビ会議授業を行い、その様子をWebページとして発信した(図3・4)。テレビ会議授業の実験やイベントとしてではなく、実用的にテレビ会議を行い入院先でも本校の授業を受けられたことを保護者に知っていただいた。



図4 併設学校でのTV授業

3) その他

その他の実践については、発表当日に報告する予定である。

4) 電子的連携推進のための「IT講習会」の実施

以上のように、情報を保護者にリアルタイムで提示しても、閲覧していただかなければ電子的連携は進まない。そこで、「ミニIT講習会」として学校独自で保護者のインターネットスキルを高める講習会を年に4回ずつ行っている。

さらに、全寮制のよさを利用して寄宿舎での夜間の自由時間に生徒向けの「IT講習会」を行い、家庭で保護者と生徒が学校の情報を語り合いながら閲覧できるように工夫している。

5 まとめ

学校公式ホームページに生徒の日々の教育活動をリアルタイムで発信しているので、生徒の様子についてはよく理解いただけるようになってきた。こうした情報発信は、本校からの一方通行の発信なので、それを補うために全職員に県立教育研究所発行のメールアドレスを取得してもらい、保護者と頻繁に電子メールで連絡を取り合っている。そのためにも教職員に対してもネットワークスキルを高めるための研修を行い、急速にリテラシーも向上してきた。